

バロー、精肉加工場拡張

バローホールディングスは、大垣市寿町の精肉加工場「大垣プロセスセンター」を同市大村に拡張移転し、加工商品のラインアップを強化する。カットした肉に味付けや野菜を加えるなど加工度を高めた商品アイテムを増やし、調理の手間を減らしたい消費者のニーズに対応する。今年秋の稼働予定。投資額は約21億円。
(河合修)



拡張移転する大垣プロセスセンター＝大垣市大村

大垣のセンター移転、今秋稼働

野菜入りなど付加価値向上

プロセスセンターは、可児、大垣市のほか、静岡、福井、富山県の5拠点に配置し、スーパーマーケットのバロー各店舗に精肉商品を提供する。大垣センターは、精肉加工会社の一角を間借りしていたが、手狭になったため、移転に踏み切った。

新しいセンターには、幅広い加工を想定したスペースを設置。調理方法に合わせてカットした肉や野菜入りのセットなど付加価値の

ある商品を手掛け、利益率の上昇を見込む。
2月からはバローの中型店の改装に着手し、各店舗で生鮮売り場面積を広げている。2月末に改装した島店(岐阜市)では、3、4月の店舗売り上げが前年同月の1・6倍だったのに対し、生鮮の売り上げは2・2倍に伸びた。2021年3月期は中型店を中心に20、30店舗を改装する予定で、各店舗の生鮮売り場の拡大に合わせ、商品アイテムの充実を図る。
バローホールディングスの担当者は「簡単に調理できる食肉の需要は増えている。加工度の高い商品を増やすことで、利益の改善も期待できる」と話している。